

【活動報告】

保育学科

「第 50 回 中・四国保育学生研究大会」当番校活動報告

堀尾 昇平

「第50回 中・四国保育学生研究大会」当番校活動報告

堀 尾 昇 平

1 中国・四国地区保育士養成協議会主催「中・四国保育学生研究大会」について

「第50回 中・四国保育学生研究大会」の当番校としての活動及び実施経緯について報告する前に、主催団体と研究大会について触れておきたい。

全国保育士養成協議会は、全国を6ブロック（北海道、東北、関東、中部、近畿、中・四国、九州）で分かれ、各地区協議会が独自に地域活動を展開し、養成校の相互の連絡や教職員の研修を行っている。「中・四国保育学生研究大会」は、この全国的な組織の下部組織である「中国・四国地区保育士養成協議会」の事業であり地区助成金対象研修事業である。

この研究大会については、中・四国保育士養成協議会規約第5条(4)「学生の研究・研修に関する事業、中・四国保育学生研究大会運営規則及び中・四国保育学生研究大会運営内規」により、中国・四国地区内3ブロック（岡山・岡山を除く中国地区・四国）で割り当てを決め、担当ブロック内各県調整により決定し、「毎年実施される事業」という位置づけで開催されている。

大会の歴史を紐解くと、昭和35年の第一回を皮切りに平成21年度で50回を迎え、半世紀以上も続く伝統ある大会となっている。また、大会の特徴として開催の運営（当日受付・司会進行等）は、学生が主体となることが慣例となっている。従って、本大会は、学生の主体的活動・画期的な研究発表の場・学生交流の場として、他ブロック、すなわち全国的に注目を集め続けている。



(写真1) 「第47回 中・四国学生研究大会」
会場風景（徳島文理大学、2006年
12月6日）



(写真2) 「第47回 中・四国学生研究大会」
に参加した下関短期大学参加学生
と筆者の記念写真

平成 21 年度、中国・四国地区の保育士養成校 60 校が加盟する中、本学が当番校になった主な要因として、当該年度は山口県の担当であったことが挙げられる。第二の要因として、山口県内の加盟大学の内、当番校を経験していない短大は本学のみという現状であった。山口県内の 4 年制大学も候補に挙がったが、参加年数が浅いため、本学が担当することとなった。

「中・四国保育学生研究大会」の研究発表内容は、保育内容に関わる研究である。学生が主体となって、口頭または、実技による発表を行っている。自分たちの発表を通じて研究を進めるだけでなく、お互いの発表を見学することによって、知識・技能を高め合うことを目的としている。各県の会場には毎年、千名を超える参加者を迎える盛況を呈している。

平成 21 年度は当初、例年通り学内での開催を予定していた。しかし、千名を超える参加者が予想される中、対応すべき大学設備・周辺の交通状況等が不十分であること。また、記念すべき 50 回大会となったこと等を踏まえ、国際会議場として設備が整っている「下関海峡メッセ」にて開催することに決定した。

当該年度は、初夏から新型インフルエンザが猛威をふるい、一時期開催も危まれたが、参加校には約 2 週間前に会場近隣の医療施設地図等を送付し、当日は参加者にマスクの着用を呼びかけること、各会場入口に消毒液を配備すること、以上 3 つの対策を行い、何とか開催することができた。

前日からの準備については、慣れない会場でもあり、当日になってようやく判明したことも多かった。各発表に支障のないように対応したつもりではあるが、参加校に対する対応が不十分な面もあったと感じる。報告者が会場内を駆け回る中、本学の各担当教職員及び学生が落ち着いて参加者に対応し、学生は司会・発表補佐等会場運営にも積極的に行動してくれたことは、手前味噌ではあるが、称賛に値すると考えている。また、当番校として参加した本学学生にとって、この経験と感動は必ずや保育者として今後につながるものと感じている。

以下、「第 50 回 中・四国保育学生研究大会（全国保育士養成協議会）実施状況報告」「下関短期大学「中・四国保育学生研究大会」参加記録（1986 年～2009 年）」を参考資料として掲載する。

謝辞

大会開催の感動の機会を与えて頂いた協議会・県内大学に記して謝意を表します。同時に、開催当番校として 1 年間にわたり、支えて頂いた本学教職員、並びに学生の皆様に対し書面を借りて感謝を申し上げます。

参考資料

1. 中・四国保育士養成協議会：平成22年度総会資料，2010年4月18日
2. 全国保育士養成協議会：平成22年度総会資料，2010年5月29日
3. 中・四国保育士養成協議会：「第50回 中・四国保育学生研究大会発表要旨集録」，2009年12月5日

2 (参考資料1)「第50回 中・四国保育学生研究大会」(全国保育士養成協議会) 実施状況報告

2・1 開催日時等

日時：平成21年12月5日(土) 9:30~16:30 会場：山口県国際総合センター(海峡メッセ)

当番校：下関短期大学 参加校：46校

参加人数：学生967名、教職員141名、計1108名(内本学 学生78名、教職員15名)

研究発表数：研究発表Ⅰ(口頭発表形式)21題、研究発表Ⅱ(実技発表形式)20題

2・2 研究大会プログラム

＜第50回大会記念講演＞(10:00~10:45、於：イベントホール)

「金子みすゞの詩と生涯」(梅光学院大学文学部 准教授 加藤 邦彦)

＜分科会A：研究発表Ⅰ＞(11:00~15:00、於：国際会議場)

1. 音のない世界に触れて (香川県立保育専門学院 野々下あさか 他8名)
2. 子ども期における身体・動作(スポーツ)経験が及ぼす影響について
—主に保育・幼児教育専攻学生とスポーツクラブ所属学生との比較から—
(吉備国際大学 西山 裕奈 他2名)
3. 子どもの遊び場についての調査研究
—岡山県高梁市における市内公園の実態と利用者の動きから—
(吉備国際大学 城山 美紀 他2名)
4. 幼児期のコーディネーション能力診断テスト開発の基礎的研究
—テスト項目の考案と測定結果の妥当性について—
(吉備国際大学 松本 らん丸 他1名)
5. 保育実習における学生の意識の変化について
—施設実習における学生の不安について— (愛媛女子短期大学 稲葉 幸 他10名)
6. 子どもの作品をもとにしたアニメーションづくりの実践
—イルミネーション点灯式に向けて— (美作大学短期大学部 村上 永利子 他4名)

7. サムとマソンの大冒険 ～手洗い うがい 歯みがきをしよう～
(宇部フロンティア大学短期大学部 青木 温子 他27名)
8. 自閉症児のための食育教材に関する研究 (梅光学院大学 三浦 眸 他1名)
9. 実習から得たこと ～ちょっと気になるY児へのかかわり～
(徳島文理大学 神原 靖子 他2名)

<分科会B：研究発表I> (11:00～15:00、於：804会議室)

1. 空想の友達の実態と保育場面における保育者の認識
(ノートルダム清心女子大学 檜原 朋世)
2. 遊具のアフォーダンスと子どもの遊び (ノートルダム清心女子大学 佐藤 靖子)
3. 学生主催行事「わんぱく通り」による学び (高松大学 富中 成美)
4. 体調不良児への対応に関する課題 ―保育施設における対応の変遷に着目して―
(高松短期大学 川田 彩加)
5. 子どもの居場所作りのための保育の環境構成を取り入れた学校図書室再生の実戦その3
―家庭読書との連携を中心に― (安田女子大学 桑原 利依 他12名)
6. 子どものおしゃれに対する保護者の意識 ―アンケート調査を手がかりに―
(就実大学 森本 理恵 他5名)

<分科会C：研究発表I> (11:00～15:00、於：805会議場)

1. 幼児の家族へのイメージと色彩について ―感情による色彩選択の視点から―
(四国大学 仁木 美佳 他1名)
2. 学生同士でつくるオープンスペース「ぶんこ広場」
(広島文教女子大学 荒井早緒里 他1名)
3. 乳幼児の発育を促す物的環境としてのおもちゃ
―創作玩具「おもちゃハウス」の制作をとおして―
(広島文化学園短期大学 尾川 鈴香 他8名)
4. 絵本「ガンピーさんのふなあそび」に学ぶ保育者の姿
(松山東雲短期大学 林 真帆 他10名)
5. 保育実技に関する研究 ―絵本「やさいのおしゃべり」をもとに―
(山口短期大学 舟木 有紀 他5名)
6. 卒業研究「こども総合研究」で学んだこと ～エプロンシアターの保育実践を通して～
(山口芸術短期大学 東 大介 他9名)

<分科会D：研究発表Ⅱ> (11：:00～15：:00、於：イベントホール)

1. (ブラックシアター) プレーメンの音楽隊
(徳島文理大学短期大学部 井東 駿介 他16名)
2. (合唱) うたおう ららら♪ 33人のハーモニー
(鳥取県立保育専門学院 森下 加織 他32名)
3. (音楽劇) みつけたよ! 一広がっていくぼくらの“わ”一
(鳥取大学 井上 愛美 他23名)
4. (ミュージカル) 「ピーターパン」の制作 (新見公立短期大学 岩田由希恵 他11名)
5. (劇) 岡山の桃太郎 (倉敷市立短期大学 嘉手 納歩 他16名)
6. (器楽+ダンス) I can't stop dancing 一踊りださずにはられない一
(香川短期大学 平井 那菜 他48名)
7. (手影絵+ラインダンス) プリンセスたちのクリスマス ～7つの物語～
(比治山大学短期大学部 生田 志織 他7名)
8. (ダンス) Let' go!! ～笑顔になれる創作ダンス～
(宇部フロンティア大学短期大学部 秋枝 由華 他8名)
9. (劇) メタボになっちゃたサンタさん (山陽学園短期大学 斉藤 美佳 他22名)
10. (オペレッタ) ありがとうの大切さ 一僕らをつなげる魔法の言葉一
(就実短期大学 滝沢 麻美 他26名)
11. (リズム音楽) ボディパーカッションとECO楽器 ～みんなで一つの音楽を～
(吉備国際大学 西滝 真一 他13名)

<分科会E：研究発表Ⅱ> (11：00～15：00、於：海峡ホール)

1. (セサミ人形劇) おもちゃのきもち (香川県立保育専門学院 石川奈津美 他9名)
2. (オペレッタ) ～とびだせ!! 野菜レンジャー～
(中国短期大学 小川加奈代 他9名)
3. (運動あそび実践) 子どもたちへの運動支援の工夫
一地域と連携した授業での取り組み一 (鈴峯女子短期大学 内山 友希 他7名)
4. (人形劇) ぼく、おおきくなる (くらしき作陽大学 越智 萌子 他11名)
5. (表現) 創る (おはなしと音・動き) (松山東雲女子大学 芝 幸咲 他5名)
6. (スクリーン紙芝居・歌) 母と子の8月8日 一「福山空襲」を題材にした紙芝居作り一
(福山市立女子短期大学 小川 優子 他7名)
7. (オペレッタ) 桃次郎 (岡山短期大学 山崎弘士朗 他11名)
8. (劇) ずーっとずっと だいすきだよ (宇部フロンティア大学 植村 愛子 他8名)

<ロビー展示会場> (9:00~16:30、於: イベントホール前ロビー)

1. パネル展示発表

(1) 「山口県食育カルタ」 (下関短期大学 川野 都 他5名)

(2) 特別支援教育ゼミナール教材展示

「一人ひとりの子どものニーズに応じた保育現場で使える教材」

(下関短期大学 海野歩未ゼミナール展示)

2. 幼稚園実習における作品展遊具用工作物展示

「運動靴」

(下関短期大学 濱田 英司 他学生有志)

3. 着ぐるみ「やまちゃん・さくらちゃん」制作(堀尾ゼミナール)及び交歓会発表

(下関短期大学)

<ロビープログラム> (12:15~12:45、於: イベントホール前ロビー)

絵本読み聞かせ「ふくのおうさまとおつきさま」 (山口県在住絵本作家 坂東 望加)



(写真3) 第50回中・四国保育学生研究大会
開会式



(写真4) 第50回中・四国保育学生研究大会
学生交歓会

3 (参考資料2) 下関短期大学「中・四国保育学生研究大会」参加記録

(1986年～2009年、1986～2000年は「下関女子短期大学」として参加)

| 年 度 | 大会 回数 | 当番県(当番校)、開催 場所(開催市)、開催日 | 発表題名(内 容) | 参加団体 参加者数 |
|----------------|----------|---|--|------------------|
| 1986年 昭和61年 | 27 | 香川県(香川保専) 香川県民ホール(高松市) | 「手作り楽器を使用したの創作音楽劇 青い鳥」(ビンの栓を使ったガラガラな ど使用) | 児童研究 部 16名 |
| 1987年 | 28 | 岡山県(就実短大) 就実短大講堂(岡山市) 10/30～31 | 「ブラックシアター」(ブラッライト使用) (TV歌およげたいやきくん他) 交歓会(蛇腹式オバQ着ぐるみ) | 児童研究 部 17名 |
| 1988年 | 29 | 島根県(県立島根女子短大) 島根県民会館(松江市) 10/20～21 | 「ブラックシアター・ディズニー夢のファン タジー」(キャラクターが音楽にあわ せて踊る) | 児童研究 部 17名 |
| 1989年 平成元年 | 30 | 高知県(高知女子短大) 高知県民文化ホール(高知市) 11/30～12/1 | 「影絵あそび・ファンタジー」 (3×4mのスクリーンを作成使用) 身体のみを使ったヒューマンシアター | 児童研究 部 22名 |
| 1990年 | 31 | 鳥取県(鳥取女子短大) 倉吉福祉会館(倉吉市) 11/8～9 | 「シルエットファンタジー つぼ」 (台本学生製作、スライドプロジェクター 2台・OHP) ヒューマンシアター | 児童研究 部 20名 |
| 1991年 | 32 | 愛媛県(聖カタリナ女子短大) 愛媛県民文化会館(松山市) 11/26～27 | 「劇 タコにはなぜ骨がない」(山口県民 話に基づいた学生台本による着ぐるみタ コを中心にしたコミカル民話劇) | 児童研究 部 21名 |
| 1992年 | 33 | 広島県(安田女子短大) アステールプラザ(広島市) 12/1～2 | 「影絵劇 てぶくろ」(ロシア民話「てぶ くろ」を基にOHP使用、影絵とスクリー ンからでて演じる着ぐるみ劇) | 児童研究 部 20名 |
| 1993年 | 34 | 山口県(岩国短大) 岩国市民会館(岩国市) 12/3～4 | 「ブラックシアター そんごくう」 (金角・銀角の巻)(蛍光ボードを体に付 け一人で動きの激しい一体を表現) | 児童研究 部 25名 |
| 1994年 | 35 | 岡山県(山陽学園短大) 岡山市民会館(岡山市) 11/30～12/1 | 「影絵 交響曲<シンフォニー>」 (幼稚園児の入園から卒園までをイベ ントを通して表現) | 児童研究 部 28名 |
| 1995年 | 36 | 徳島県(四国大学短大部) 徳島市立文化センター (徳島市) 11/30～12/1 | 「ブラックシアター西遊記」 (火の出るうちわの巻)(体に蛍光ボード を付けて表現。布に蛍光色して、揺らし て炎を表現) | 児童研究 部 20名 |
| 1996年 | 37 | 香川県(香川短大) 香川短大講堂(宇多津市) 11/30～12/1 | 「アクションソングの研究」 (3曲、動きを入れた合唱) | 児童研究 部 22名 |
| 1997年 | 38 | 愛媛県(今治明德短大) 今治市公会堂(今治市) 12/4～5 | 「ドラえもののポケット」ダンス3曲 (アブラハムの7人の子他) | 児童研究 部 14名 |

| | | | | |
|---------------------------|----|---|--|---------------------------|
| 1998 年 | 39 | 広島県 (比治山大短大部) 広島郵便貯金ホール(広島市) 12/2~3 | 「創作劇ドリームワンダーランド」 着ぐるみウサギと仲間たちの幼稚園物語 (悪い心をブラックライトで表現) | 児童研究部 18名 |
| 1999 年 | 40 | 山口県 (山口短大) 防府市公会堂 (防府市) 12/1~2 | 「創作劇 The realities of life」 (着ぐるみ劇キティ・バツ丸他が登場する クリスマス話。人形(物)を大切に) | 児童研究部 25名 |
| 2000 年 平成12年 | 41 | 岡山県 (倉敷市短大) 倉敷市民会館 (倉敷市) 12/13~14 | 「着ぐるみ創作劇 でたらめ?!」 着ぐるみキティ・パンダ大王 (悪い心はだれでもある?悪い心虫) | 児童研究部 17名 |
| 2001 年 (下関短期大学 と改称) | 42 | 鳥取県 (鳥取保専) 倉吉未来中心 (倉吉市) 12/6~7 | 「ヒューマンシアターわたし?」 (2年生 3名補助参加。自然の音(波・ 砂浜・雨等)のみの身体表現影絵) | 児童研究部 (補助 含者) 8名 |
| 2002 年 | 43 | 島根県 (県立短大) 島根県民会館 (松江市) 12/4~5 | 「Voice…」(プラスバンドと着ぐるみ による劇表現、着ぐるみが喧嘩すると声 が楽器の音になるよう表現) | 児童研究部 17名 |
| 2003 年 | 44 | 高知県 (高知学園短大) 高知県民文化ホール(高知市) 12/4~5 | 「Shall we dance?」 (「モーニング娘。」のダンス3曲、男女 モー娘になりきって表現) | 児童研究部 18名 |
| 2004 年 | 45 | 愛媛県 (愛媛女子短大) 南予文化会館 (宇和島市) 12/9~10 | 「音楽表現 てぶくろを買いに」 (同題名の絵本を基に読み聞かせ・楽器・ パワーポイントによる PC 絵本) | 児童研究部 13名 |
| 2005 年 会場を学内 使用に変更 | 46 | 広島県 (広島文化短大) 文化短大各講義室 (広島市) 12/3 | 「影絵劇 みにくいあひるの子」 (ヒューマンシアター、発表1口頭発表。 発表多数の為ビデオ撮影・上映を行う) | 児童研究部 16名 |
| 2006 年 | 47 | 徳島県 (徳島文理大) 大学各講義室・ホール (徳島市) 12/9 | 「みんなといっしょー着ぐるみを使っ てー」(友達を仲良くさせるためにぬい ぐるみを仲介として仲良しになる話) | 児童研究部 15名 |
| 2007 年 | 48 | 岡山県(ノートルダム女子大) 大学各講義室・ホール (岡山市) 12/1 | 「ぬいぐるみ劇ーみんなといっしょー」 (友達とぬいぐるみが、差別なく仲良し になる方法を表現) | 児童研究部 11名 |
| 2008 年 | 49 | 香川県 (香川短大) 大学各講義室・体育館 (高松市) 12/6 | 海野ゼミ (口頭発表)「特別な教育的ニ ーズをもつ子どもへの支援」 木戸ゼミ (実技発表)「(ゴスペル劇) サ ンタが街にやってきた」 | 海野ゼミ 4名 木戸ゼミ 13名 |
| 2009 年 | 50 | 山口県(下関短大) 海峡メッセ下関各ホール・ 会議室 (下関市) 12/5 | 当番校として中・四国各地大学を迎え運 営 (開・閉会式、プログラム運営、交歓 会等) | 学生 78 名、教職 員 15名 |